さくらんぼだより

草笛学園　　2023年　9月

　９月に入り、陽が落ちると、風も涼しくなり始める季節ですね。すっかりとセミの鳴き声も聞こえなくなり、空を飛ぶトンボからも秋の始まりを感じられるようになりました。

Ⅰ　風邪がはやった日、出席園児は三人だった。ごはんはふつうの家庭みたいだった。

《かぜ組とであう》

　初めて利島に渡った日のことは、とてもよく覚えています。1976 年の春でした。大島でそれまでの大型船から、油臭・振動・騒音のひどい老朽船に乗りかえました。週に２本の利島行航路です。もう東京湾ではない外界で、上下左右によく揺れました。

　客は、全員、船底の部屋で毛布をかぶって死んだように横になっています。ぼくだけが初めての旅に興奮して、風をこらえてデッキに立っていました。

　途中で東の水平線に日が昇り、海に金色の帯ができました。なにもかもがワクワクする、新しい生活の周囲の光景です。

そして、そこでひょいっと前方を向いたとき、彼方に利島を発見したのです。

　利島のことはひととおり本で調べてきましたが、その頂が空のあんなに高いところにあるとは知りませんでした。人家は見えません。集落は、椿林の下にひっそりと隠れているのでした。

（略）

　僕の利島保育園での子どもとの関係は、こんなふうに公よりも私の部分から始まりました。利島保育園の職員は保母２人、保父１人、調理員１人の計４人。

　クラスは一応３クラスつくり、上からかぜ組・はな組・ほし組です。かぜ組は「忍者みたいでかっこいい」からと、ぼくが任命しました。

　誰もが普通に読める保育の本を書いてみたいと、前々から思っていた。今までの保育の本が、もっぱら保母を対象にした、「こういう保育をしたら子どもがこう伸びた」という実践報告や、保育技術の提供ばかりで少々不満だったから。

面白そうだと思ったら、わざとでもケガをする遊びの天才たち。とんでもないウソだって軽々とつく。鬼とたたかい、カッパをさがす。象にも自動車にも変身する。小さな体につまったエネルギーをまきちらしながら、子どもたちは毎日を、思い思いに駆けぬける。

　島の保育園で、町の幼稚園で、保父として過ごした日々に、子どもたちが見せてくれた豊かな表情をたくさんあつめて綴る、痛快な保育エッセイ。

（参考文献）子どもにもらった愉快な時間　杉山亮

１０月のさくらんぼ教室のお知らせ

さくらんぼ①：１０月１２日（木）１３：００～
活動…ミニうんどうかい
さくらんぼ②：１０月２６日（木）１３：００～
活動…ミニうんどうかい
持ち物
シューズ・タオル・水筒

『参加される皆様へ』　～ご協力をお願いします～

・お休みされる場合は、学園までご連絡下さい
・**参加費はおやつ台代の１００円です**（おたよりがホームページに記載され、通信費が　必要ないため）製作やクッキングの活動の時には材料費として＋１００円いただきます。その都度連絡いたします
・草笛学園遊戯室での活動となります　　・靴は下駄箱に入れて下さい
・水分補給のため、お茶を用意して下さい（ジュース類は控えて下さい）
・きょうだい児の参加はご遠慮下さい。預け先がない場合は事前に職員までご相談下さい
・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきて下さい

【感染症対策について】（※国の方針に準じて対策を見直しています）

・参加者や職員共にマスクの着用は自由とします。但し、クッキングの際やその時々の感染状況をみて着用をお願いする場合があります
・原則大人１名・子ども１名の参加をお願いしてきましたが、今後はその限りとはしません但し、グループによっては参加者が多い場合がありますので、担当職員にご相談下さい
・入室前の検温・申告は不要ですが、朝の検温等、引き続き体調管理をお願いします
37.5 度以上の発熱がある場合は参加をお控え下さい
・園内の換気や消毒は引き続き継続します